

1 学校経営推進費 評価報告書（1年め）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立東淀工業高等学校
取り組む課題	グローバル人材の育成
評価指標	・工業の専門的な資格取得者数 ・競技会等への参加及び成績向上
計画名	「東淀ロボット人材創出計画ーロボット Sier の育成」

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	専門分野の技術・技能の向上を図る。また、社会の要請に応える新たな「ものづくり教育」に挑戦していく。 ○令和5年度学校経営推進費「東淀ロボット人材創出計画ーロボット Sier の育成」 令和7年度成果の検証方法と評価指標 ①国家資格技能検定シーケンス制御作業受験者数（20名以上） ②ロボットS I 検定受検者（20名以上） ③「高校生ロボットインテグレーション競技会」入賞 ④「ロボットアイデア甲子園！」全国大会出場 ⑤新工業系高等学校ロボティクス系列の実習カリキュラムのシラバス完成
事業目標	①技術力の育成 基礎的な電気・電子技術や制御技術の向上。ロボット Sier（*）をめざして、ロボットシステムの構築や制御プログラミングなど高度な技術力を習得する。現場で必要とされる技術に応じた最新の技術情報を取り入れ、生徒たちに最先端の技術に触れる機会を提供する。 * ロボット Sier（ロボットシステムインテグレーター）：最適なロボットシステムを設計し、制御のプログラミングなどを行うエキスパート ②チームワーク能力の育成 ロボットシステムの構築には複数の技術分野を統合的に取り扱う必要がある。そのため実習においては、生徒たちにチームワーク能力を育成することが重要となる。生徒たちが自らアイデアを出し合い、協力して課題を解決するとともに、実際のロボットシステム構築の現場で必要なコミュニケーションスキルを身につけるため、プレゼンテーションやディスカッションなどの活動を積極的に取り入れる。 ③イノベーション力の育成 現代社会において、常に新しい価値を創造するイノベーション力が求められている。生徒が自らアイデアを出し合い、創造的な解決策を導き出す力を育成することが重要である。問題提起の方法や、課題解決に向けたアイデアの出し方を指導する。また、社会的な視点を取り入れ、ロボットシステムが解決すべき社会問題について考えることで、社会貢献意識を高める。
整備した 設備・物品	協働ロボット・AI・IOT 学習システム（BRT/CBT）

取組みの 主担・実施者	主担：機械工学科 首席教諭 実施者：機械工学科 全教員
本年度の 取組内容	12月に設備が設置され、3年課題研究「ロボットプログラミング」班の生徒が動作を確認した。生徒達は6月から愛知県主催の「高校生ロボットインテグレーション競技会」に参加しており、ロボットに関する基本的な値機器・技能を習得している。生徒達と相談して、令和6年度から機械工学実習のテーマとして実施するための教材を作成した。また、3月14日に機械工学科教員対象の技術研修会を実施した。
成果の検証方法 と評価指標	①国家資格技能検定シーケンス制御作業受験者数（10名以上） ②「高校生ロボットインテグレーション競技会」基礎課題完成 ③「ロボットアイデア甲子園！」書面審査通過
自己評価	①技能検定シーケンス制御作業受験者数11名。……………（○） ②「高校生ロボットインテグレーション競技会」応用課題完成。……………（○） ③「ロボットアイデア甲子園！」大阪大会 敢闘賞。……………（○）
次年度に向けて	・「高校生ロボットインテグレーション競技会」参加（4月～12月） ・「ロボットアイデア甲子園！」（7月～12月）に参加。 ・3年機械工学実習メカトロニクスコースの実習テーマとして実施する。（4月～） ・府立工業系高等学校の教員対象の技術伝達講習会を実施する。（8月） ・新工業系高等学校ロボティクス系列の実習カリキュラムを検討する。 ・生徒による成果報告会を実施する。（2月）

3. 事業費報告

今年度事業費総額	4,994,000	円
-----------------	------------------	----------

積算内訳

* 決算科目（節）を明示し、節毎に積算内訳を記載すること。

	科目（節）	番号	内訳	単価	数量	金額
積算内訳	8 備品購入費	1	協働ロボット学習システム	¥4,994,000	1	¥4,994,000
		2				
		3				
					小計	4994000
					合計	¥4,994,000